

＜今日の説教のポイント 出エジプト記3章11～22節＞

神様がご自身について語られた、聖書の中でも最も興味尽きない箇所。

1 (11-12) モーセの存在を支える土台としての「神共にいます」

「わたしは何者でしょう」(11)と言って、命じられた務めをモーセが拒んだ時に、神様は、「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える」と言われました。「燃える柴」(2)とは違い、どうしてこれがしるしなのでしょうか？ モーセは自分の非力を思い、「わたしは何者でしょう」と言いました。それに対して神様は、「あなた自身でなく、必ずあなたと共にいるわたしを見よ」と語りかけられたのです。モーセがこの神様を信じて生き出すことが必要なしるし、信じて生き出したら分かるしるしだと言えるでしょう。よって、そうした時に訪れる未来の内容を神様は告げられたのです。この「神は我々と共におられる：インマヌエル」の約束は、イエス・キリストによって全ての人にも与えられたのです（マタイによる福音書 1:23）。私たちは、この神様と共に生きるなら、自分がどんな人間であっても、生きていける存在、生きていい存在なのです！

2 (13-14) ヤハウエ(わたしはある：I am)が持つ意味

神様はご自分のことを「わたしはあるという者だ」(13)と言われました。これは、英語で言えば、存在を表す be 動詞から来る表現であり、「わたしこそが存在する者、よって、全ての存在の源である」と言われているように思えます。ですからこそ、「わたしは必ずあなたと共にいる」と言われたことにも重みが出て来ます。信じるならこのお方なのです。

3 (15-22) 歴史を支配し、しかも恵みで支配し給う神様

このことはさらに目を広げると、過去から未来に至るまで世界の歴史はこの方と共にあるのだということにつながってきます。だからこそ、神様はかつてイスラエルの父祖たちになされた約束（創世記 22:16-19）を反古にされず、モーセを立て、ファラオの下に苦しむ人々を救い出そうとされたのです。聖書がイスラエルの歴史を追う所以です。そして、その神様が、信じた者にはよく分かる“特別のしるし”、イエス・キリストを2千年前に与えて下さったのです！